

米国・カナダ・オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

● 米国：2025年12月9日公表 USDA Crop Production ●

10月の農業気象概況（2025年11月14日公表）

大平原地域から東方が平年並みを上回る乾燥状態となり、米国西部が10月に異常に湿潤な天候となるという状況が定型化するなかで、米国中央部及び東部で干ばつが悪化し、ロッキー山地から西方の地域で状況が改善するという傾向が進みつつある。非公式ながら、大平原地域北部が分かれ目となっており、干ばつ状態のなかに湿潤な地域と乾燥した地域が混在して複雑な様相を呈している。さらに、米国南部の中央部及び米国西部の南部の各地では、十分な降雨によって干ばつ状態が沈静化し、ところによっては干ばつ状態が改善された地域があった。ただし、周辺の多くの地域では激しい干ばつが続いている。大平原地域の中央部及び南部から米国南西部にかけての地域では、夏作物の収穫に有利な乾燥状態が例年より遅くまで続いた後に、10月末の時点で湿潤な天候となった。多少なりとも10月末に降雨が得られたことで、作付け後間もない冬作のコムギ及び被覆作物の発芽及び生育に有利な状況となった。

米国南部の48州において干ばつ状態にある面積の割合は、米国干ばつ監視委員会（the U.S.Drought Monitor）によれば、10月21日の時点で46.08%で頂点に達した。この値は9月初めに比べて11%の増加、最低だった8月初めに比べて16%以上の増加となっている。米国中央部及び東部で10月末に降雨が得られたことで、10月28日の時点までに、干ばつ状態にある面積の割合が43.60%まで、わずかではあるが低下した。10月末に暴風雨が多かったものの、10月中の厳しい天候の報告例は比較的少なく、暫定的な報告では、米国全体で36個未満の竜巻の報告がある程度である。

10月中は、上層風が優勢で熱帯性低気圧が大西洋沿岸からそれるので、米国本土は熱帯性低気圧の深刻な影響を受けずにすんでいた。しかし、10月末に記録史上3番目に強力なハリケーンとなったハリケーン・メリッサが、中心気圧892hpaの勢力となり、10月28日にジャマイカの南西部の海岸に上陸した。

暫定的な観測結果によると、ハリケーン・メリッサの勢力は、大西洋沿岸上陸時の中心気圧が最も低かった1935年のフロリダ半島のレイバーデイ（Labor Day）・ハリケーンに匹敵するものであった。その一方で太平洋沿岸では、立て続けに複数の熱帯性低気圧の影響を受けた。2つの連続した暴風雨（ハリケーン・プリシラ及びトロピカルストーム・レイモンド）が、ほぼメキシコの太平洋沿岸に沿って進み、影響を与えた。プリシラとレイモンドの余波として、湿った空気がさらに北方に進み、米国西部の各地に大量の降雨がもたらされた。プリシラは10月4日から10日までハリケーンとしての勢力を保ち、レイモンドは10月9日から11日まで勢力を維持した。

米国中央部では10月は温暖な天候であった。一方、大西洋沿岸諸州中部及び南部（フロリダ州を除く）並びに米国極西部（太平洋沿岸）では平年並みまたは平年並みを下回る気温であった。大平原地域及びコーンベルト地帯西部では、10月の月別平均気温がおおむね少なくとも15℃はあり、乾燥した天候の間に夏作の作物の成熟及び収穫が促進された。平年並みに比べて気温が低かった地域として太平洋沿岸諸州では、カリフォルニア州北部及び中部で平均気温が平年並みを2.75℃下回った。10月の天候が、標高の高い地域の降雪を含めて冷涼で荒れ模様だったことで、米国西部の自然火災の時期が効果的に終了した。10月の時点までの今年度の自然火災の面積は米国全体で200万haであり、過去10年間の平均の280万haを大きく下回っている。

表1 米国の乾燥インゲンマメ等の生産見通し

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2024	2025	2024	2025	2024	2025	2024	2025
ヒヨコマメ	203,150	218,940	199,270	212,060	1.28	1.59	255,460	337,020
乾燥食用インゲンマメ	620,390	562,110	608,490	552,200	2.33	2.47	1,419,250	1,363,320
乾燥食用エンドウ	394,980	477,130	380,370	458,920	1.99	2.03	756,550	933,310
レンズマメ	378,790	434,230	365,440	425,330	1.12	1.18	410,460	502,720

生産量：国内農業統計局(NASS)、農業統計委員会、米国農務省(USDA)から、2025年12月9日付で公表。

米国の2024作物年度及び2025作物年度(推定)の作物別作付面積、収穫面積、単収及び生産量。

データは、入手可能な最新の推定値であって、最新の報告書または前回の報告書に基づいている。2025作物年度については、現行作物年度の推定である。

●カナダ：2025年11月25日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

概観

本報告書は、10月時点でのカナダ農業食料省（AAFC）の2025/26作物年度の生産見通しを、2025年11月14日までに入手できた情報に基づいて更新するものである。大部分の作物について、カナダの作物年度は、8月1日に始まり、

7月31日に終わる。トウモロコシ及びダイズについては、作物年度は9月1日から8月31日までである。引き続いている地政学上の危機的状況により、カナダ及び世界の穀物市場は不確実性が強まりつつある。

乾燥エンドウ

2025/26作物年度のカナダの生産量は、前年度に比べて19%増加して356万tとなる見込みである。これは、主として単収の上昇によるもので、特にカナダ全体の乾燥エンドウ生産量の47%を占めるサスカチュワン州で単収が上昇した。黄色乾燥エンドウの生産量は、前作物年度に比べて増加して278万t近くになる見込みであり、緑色乾燥エンドウ生産量は、53万tまで増加する見込みである。その他の各種銘柄の乾燥エンドウ生産量の合計も、増加して25万tとなる見込みである。期初在庫量が増加し、生産量も増加したことから、総供給量は前作物年度を22%上回って410万tとなる見込みである。輸出量は前作物年度と変わらず220万tとなる見込みである。2025年8月から9月までの時点では、バングラデシュ及びインドがカナダの輸出先の上位2位までを占めている。総供給量が増加したことで、期末在庫量は大幅に増加して記録史上最高の水準に達するものと見込まれている。2025/26作物年度の平均価格は、すべての銘柄についてスポット価格が低下したことから、2024/25作物年度に比べて30%低下して280ドル/tとなる見込みである。

10月中旬に、サスカチュワン州の黄色乾燥エンドウの生産者価格は15ドル/t上昇し、緑色乾燥エンドウの生産者価格には変わりがなかった。現時点での作柄指標によれば、カナダ産第1等級及び第2等級の乾燥エンドウ供給量が全体の供給量に占める割合は、前作物年度と同様となる見込みである。このことと、カナダの乾燥エンドウ生産量が増加したことにより、2025/26作物年度のカナダ産第1等級及び第2等級の乾燥エンドウ供給量は増加する見込みである。2024/25作物年度の同時期には緑色乾燥エンドウの価格が黄色乾燥エンドウの価格を208ドル/t上回っていたが、2025/26作物年度の現時点までのところでは、緑色乾燥エンドウの価格が黄色乾燥エンドウの価格を130ドル/t上回っている。

レンズマメ

2025/26作物年度の生産量は、50万t近く（22%）増加して300万t近くにな

る見込みであるが、これはカナダ西部で単収が上昇したことによるものである。赤色レンズマメの生産量は、前年度に比べて大幅に減少して160万tとなり、大粒緑色レンズマメの生産量は、前年度に比べて2倍の90万tとなる見込みである。その他のレンズマメ全品種の生産量は、56万tとなる見込みである。期初在庫量が増加し、生産量も増加したことから、総供給量は32%増加して360万tとなる見込みである。輸出量は増加して210万tとなる見込みである。現時点では、インド、EU諸国及び米国が輸出市場の上位を占めている。期末在庫量は大幅に増加して記録史上最高の115万tとなる見込みである。平均価格は、2024/25作物年度の水準に比べて33%低下して530ドル/tとなる見込みであり、等級分布は平年並みである。

10月中にサスカチュワン州の大粒緑色レンズマメの生産者価格は75ドル/t上昇し、赤色レンズマメの生産者価格は5ドル/t上昇した。これは主として緑色レンズマメの輸出需要が強かったことによる。前作物年度に比べて、2025/26作物年度は、第1等級及び第2等級のカナダ産レンズマメの総供給量が増加する見込みである。現時点までのところ、大粒緑色レンズマメの価格は、赤色レンズマメの価格を100ドル/t上回っているが、2024/25作物年度には、赤色レンズマメの価格を465ドル/t上回っていた。

乾燥インゲンマメ

2025/26作物年度の生産量は、17%減少して35万2,000tとなる見込みである。このうち6万6,000tがホワイト・ビーンであり、28万6,000tがカラード・ビーンである。オンタリオ州及びマニトバ州の生産量は、作付面積は全体的には変わりがなかったが、単収が低下したことで減少した。アルバータ州では、作付面積の減少と単収の低下によりカラード・ビーン生産量もまた減少した。期初在庫量が増加したことから、総供給量の減少率は10%に留まる見込みである。

輸出量は、前年度に比べて減少する見込みである。8月及び9月のデータによれば、EU諸国及び米国が輸出市場の上位を占めている。期末在庫量は減少する見込みである。カナダ産乾燥インゲンマメ全等級の平均価格は、北米大陸全体での総供給量が増加したことにより、前年度と比べて低下して850ドル/tとなる見込みである。米国の期初在庫量が多かったことが、北米大陸全体での総供給量の増加の主な原因である。

ヒヨコマメ

2025/26作物年度の生産量は、前作物年度に比べて15%増加して33万1,000tと推定されている。これは作付面積の増加及び単収の上昇によるものである。カブーリ種及びデシ種の両方の生産量が前作物年度に比べて増加する見込みである。期初在庫量が増加したことから、総供給量は21%増加する見込みである。輸出量は、20万tとなる見込みであり、米国及びEU諸国が輸出市場の上位を占めている。主として総供給量が増加したことにより、期末在庫量は大幅に増加する見込みである。世界的に生産量が増加する見込みであり、カナダ産ヒヨコマメの品質は平年並みを下回る見込みであることから、平均価格は前作物年度に比べて低下して600ドル/tとなると予測されている。

表2 カナダの豆類収穫面積、単収その他

	収穫面積 (1,000ha)	単収 (t/ha)	生産量 (1,000t)	輸入量 (1,000t)	総供給量 (1,000t)	輸出量 (1,000t)	国内 総利用量 (1,000t)	在庫量 (1,000t)	生産者 価格 (ドル/t)
乾燥エンドウ (Dry Peas)									
2023-2024	1,200	2.17	2,609	127	3,286	2,402	584	299	460
2024-2025	1,281	2.34	2,997	38	3,335	2,175	671	489	405
2025-2026 f	1,385	2.57	3,563	20	4,072	2,200	672	1,200	280
レンズマメ (Lentils)									
2023-2024	1,460	1.23	1,801	92	2,104	1,675	264	165	1,000
2024-2025	1,693	1.44	2,431	124	2,721	1,821	350	549	790
2025-2026 f	1,748	1.70	2,972	75	3,596	2,100	351	1,145	530
乾燥インゲンマメ (Dry Beans)									
2023-2024	129	2.63	339	70	489	408	61	20	1,215
2024-2025	160	2.65	424	71	515	402	73	40	1,075
2025-2026 f	146	2.42	352	70	462	380	62	20	850
ヒヨコマメ (Chick peas)									
2023-2024	127	1.25	159	47	299	184	86	30	1,005
2024-2025	194	1.48	287	43	359	209	88	62	735
2025-2026 f	214	1.55	331	40	433	200	88	145	600

(a) 作物年度は、8月から7月までである。

(b) 輸出入には加工品の量は含まれない。

(c) 国内総利用量は、食用、工業用、飼料用、種子用及び損耗からなる。

(d) 生産者価格は、すべての銘柄、等級及び市場の平均価格でFOB価格である。

資料：カナダ統計局 (STC) 及びカナダ農業食料省 (AAFC)

f：カナダ農業食料省 (AAFC) による予測値である。ただし、2025/26作物年度の収穫面積、単収及び生産量については、カナダ統計局 (STC) による予測値である。

● オーストラリア:2025年12月2日公表ABARES Australian crop report December 2024

概観 (抜粋)

2025/26作物年度のオーストラリアの冬作物の総生産量は、前作物年度から10%増加して6,630万tと見込まれている。この値は、2024/25作物年度までの10年間の平均の4,920万tを35%上回っており、予測通りになれば記録史

上2番目の生産量となるであろう。オーストラリアの冬作物の総生産量は、州によって冬作期間中の生育条件にかなりの差はあるものの、増加するものと予測されている。

西オーストラリア州では、冬作物の総生産量は大幅に増加して、記録史上2番目となるものと予測されている。冬作期間の初めには有利な生育条件と不利な生育条件が混在していたが、平年並みを上回る時宜を得た降雨に恵まれ、春季の天候が温暖であったことで、記録史上最高の平均単収が得られた。

クィーンズランド州及びニューサウスウェールズ州北部では冬作期間中の生育条件が良好であったことから、収穫は高単収のうちに終了した。クィーンズランド州の冬作物の総生産量は、記録史上2番目となるものと見込まれている。ニューサウスウェールズ州では、春季の登熟適期に降水量が平年並みを下回ったことから、冬作物の総生産量は前作物年度に比べて10%減少する見込みである。

南オーストラリア州及びヴィクトリア州では、冬作期間の初めには生育条件に恵まれなかったが、冬季及び春季に時宜を得た降雨があり、春季の気温が温暖であったことから、総生産量が飛躍的に増加するものと予測されている。南オーストラリア州の冬作物総生産量は前作物年度に比べて63%増加する見込みであり、ヴィクトリア州の冬作物総生産量は17%増加する見込みである。

オーストラリアの冬作物生産量の見通しは、『2025年9月時点のオーストラリア作物報告書』(September 2025 Australian Crop Report)以降に、増加の方向で修正された。これは、春季の生育適期に時宜を得た降雨があったことと、大部分の冬作生産地域で春季の気温が温暖であったことによるものである。ニューサウスウェールズ州南部及び南オーストラリア州北部の一部地域は例外であり、春季の降水量が平年並みを下回ったことで単収に影響が生じている。

- 2025/26作物年度のレンズマメ生産量は、平均単収が38%上昇したことと、作付面積が10%増加して記録史上最高に達したことにより、51%増加して、これもまた記録史上最高の190万tとなる見込みである。レンズマメの作付面積は引き続き増加しており、これは生産者が、粗利益が有利で、乾燥条件に耐性のあるレンズマメを輪作の中に取り入れることを選好していることによるものである。

- 2025/26作物年度のヒヨコマメ生産量は、7%減少して210万tとなる見込みであるが、それでも記録史上2番目の生産量となっている。生産量の減少は、平均単収が10%低下したことを反映しているが、それでも2024/25作物年度までの10年間の平均を45%上回っている。クイーンズランド州でもニューサウスウェールズ州でも冬作期間中の生育条件は良好であったが、単収は前作物年度の記録史上最高の単収に匹敵するには至っていない。

2025/26作物年度の冬作作物の総作付面積は、前作物年度の記録史上最高の値をわずかに下回る2,510万haとなるものと推定されている。西オーストラリア州では作付面積が3%増加しているが、この値はニューサウスウェールズ州で作付面積が3%減少したことで相殺されたものと推定されている。クイーンズランド州では作付面積が前作物年度の記録史上最高の値に比べて1%減少したものと推定されている。南オーストラリア州及びヴィクトリア州を合計した冬作作物作付面積は、前作物年度とおおむね変わらないものと推定されている。

表3 オーストラリアの豆類の作付面積及び生産量

作物名	作付面積 (1,000ha)			生産量 (1,000t)		
	2023-24 s	2024-25 s	2025-26 f	2023-24 s	2024-25 s	2025-26 f
ヒヨコマメ	409.0	1,038.5	1,083.5	491.2	2,267.0	2,119.5
ファバビーン(ソラマメ)	343.1	401.0	441.0	640.4	749.5	930.0
フィールドピー	192.0	193.0	179.0	228.0	228.0	220.6
レンズマメ	865.0	1,036.8	1,136.5	1,643.0	1,265.1	1,909.9
ルーピン	441.0	514.5	551.3	610.8	778.0	991.2

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作物年度は、4月1日から3月31日までの12カ月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値はオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。作付面積には、収穫に至った面積、途中で飼料用に転用された面積及び収穫を断念した面積が含まれる。

資料: ABARES(オーストラリア農業資源開発局)、ABS(オーストラリア統計局)、Pulse Australia。

表6 豆類価格の推移

	2024				2025		
	第1四半期 豪ドル/t	第2四半期 豪ドル/t	第3四半期 豪ドル/t	第4四半期 豪ドル/t	第1四半期 豪ドル/t	第2四半期 豪ドル/t	第3四半期 豪ドル/t
国内価格: ルーピン (クイナナ調べ)	482.3	564.2	558.1	516.5	510.8	511.9	468.5
国内価格: ヒヨコマメ (メルボルン調べ)	870.8	943.8	965.7	902.3	938.8	913.8	797.7
国内価格: フィールドピー (メルボルン調べ)	536.8	578.2	564.6	574.4	646.5	739.2	677.3
輸出量: ヒヨコマメ b	965.3	1,022.4	1,074.0	1,082.2	898.8	1,027.2	901.9
輸出量: フィールドピー b	657.4	596.3	628.7	639.7	673.2	757.3	826.3

a: 単位重量当たりの価格は、米ドルで表示された日別買取価格の平均を、日別為替レートの四半期ごとの平均値に基づいて換算したものである。

b: 単位重量当たりの輸出価格は、その四半期において輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が記録したオーストラリアからの輸出の単位重量当たりの輸出価格の平均 (F.O.B.本船渡し)である。輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点との間には、大きな時間差が生じる可能性がある。

注: 第1四半期は1月から3月まで、第2四半期は4月から6月まで、第3四半期は7月から9月まで、第4四半期は10月から12月までである。価格の算出に当たっては、商品サービス税(GST)を除外している。

資料: ABARES(オーストラリア農業資源開発局)、ABS(オーストラリア統計局)、CMEグループ、Farm Weekly、IGC(国際穀物審議会)、Jumbuk AG、The Land、The Weekly Times、USDA(米国防務省)。

表4 オーストラリアの州別生産量

	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クィーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積 (1,000 ha)	生産量 (1,000t)										
ヒヨコマメ												
2023-24s	150.0	165.0	25.0	30.0	220.0	280.0	10.0	12.0	4.0	4.2	0.0	0.0
2024-25s	580.0	1 280.0	24.0	22.0	420.0	950.0	10.0	9.0	4.5	6.0	0.0	0.0
2025-26f	590.0	1 180.0	8.0	11.0	470.0	910.0	11.0	13.5	4.5	5.0	0.0	0.0
2024/25年度までの5年間の平均	301.6	541.6	28.0	34.1	269.4	454.7	9.2	11.0	5.2	6.2	0.0	0.0
フィールドピー												
2023-24s	40.0	40.0	45.0	60.0	0.0	0.0	75.0	86.0	32.0	42.0	0.0	0.0
2024-25s	50.0	65.0	40.0	40.0	0.0	0.0	70.0	65.0	33.0	58.0	0.0	0.0
2025-26f	45.0	58.0	35.0	38.0	0.0	0.0	65.0	69.6	34.0	55.0	0.0	0.0
2024/25年度までの5年間の平均	40.3	49.1	49.2	79.1	0.0	0.0	76.5	98.9	39.3	58.9	0.0	0.0
レンズマメ												
2023-24s	15.0	14.0	450.0	856.1	0.5	0.4	390.0	760.0	9.5	12.5	0.0	0.0
2024-25s	35.0	43.0	520.0	650.0	1.3	1.5	470.0	554.6	10.5	16.0	0.0	0.0
2025-26f	75.0	90.0	530.0	860.0	1.5	1.6	515.0	937.3	15.0	21.0	0.0	0.0
2024/25年度までの5年間の平均	17.8	20.0	371.2	626.6	0.9	1.0	333.9	627.0	10.2	15.5	0.0	0.0
ルーピン												
2023-24s	45.0	60.0	40.0	41.0	0.9	1.4	40.0	48.0	315.0	460.0	0.1	0.4
2024-25s	90.0	125.0	35.0	30.0	1.5	3.0	38.0	35.0	350.0	585.0	0.0	0.0
2025-26f	80.0	130.0	34.0	32.0	1.3	2.4	36.0	46.8	400.0	780.0	0.0	0.0
2024/25年度までの5年間の平均	67.0	102.0	38.0	41.0	1.3	2.1	44.0	53.5	368.3	663.9	0.0	0.1

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作付面積には、収穫に至った面積、途中で飼料用に転用された面積及び収穫を断念した面積が含まれる。生産量は、営農組織における推定生産額(EVAO)をもととして、1986/87年度から1990/91年度までは20,000ドル以上、1991/92年度から1992/93年度までは22,500ドル以上、1993/94年度から2014/15年度までは5,000ドル以上及び2015/16年度からは40,000ドル以上のEVAOに達している営農組織を対象として示している。

資料: ABARES(オーストラリア農業資源開発局)、ABS(オーストラリア統計局)、Pulse Australia。

表5 オーストラリアの豆類の供給及び利用状況

作物名	2018-19 (1,000t)	2019-20 (1,000t)	2020-21 (1,000t)	2021-22 (1,000t)	2022-23s (1,000t)	2023-24s (1,000t)
生産量						
ルーピン	799	591	866	958	1101	611
フィールドピー	160	210	399	261	314	228
ヒヨコマメ	205	235	876	1062	541	491
見かけ上の国内利用量 a						
ルーピン	526	376	406	400	268	216
フィールドピー	87	165	275	66	186	125
ヒヨコマメ b	1	1	1	1	1	1
輸出量						
ルーピン	273	215	459	557	833	395
フィールドピー	75	48	126	196	129	104
ヒヨコマメ	371	349	879	594	725	518

a: 市場年度は、10月から9月までである。

b: 穀物及び穀物相当の小麦粉を含む。

c: 生産量に輸入量を加えた値から輸出量を差し引き、さらに在庫量に変化が生じたことが認められたか、または推定された場合にはその値を差し引いた残りとして算出している。

d: 市場年度は、11月から10月までである。

e: 見かけ上の国内利用量は、輸出量が生産量と在庫量を合計した値を上回った場合には1.0と表示している。

s: ABARES(オーストラリア農業資源開発局)による推定。

注: 輸出量のデータは、市場年度に基づくものであって、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量とは一致しない場合がある。生産量は、営農組織における推定生産額(EVAO)をもととして、1986/87年度から1990/91年度までは20,000ドル以上、1991/92年度から1992/93年度までは22,500ドル以上、1993/94年度から2014/15年度までは5,000ドル以上及び2015/16年度からは40,000ドル以上のEVAOに達している営農組織を対象として示している。

資料: ABARES(オーストラリア農業資源開発局)、ABS(オーストラリア統計局)、Pulse Australia。